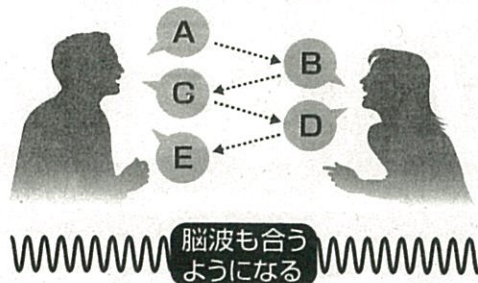


# 発話リズムで会話円滑

◆同じ間で交互に話をする...



研究チームは2人の発話の間隔と脳波を測った。20〜40歳の男女40人を2人ずつペアにして対面させ、AからGまでのアルファベットを交互に発声した時の脳波を調べた。身ぶりや手ぶりの影響が出ないように体を固定させて行った。

Aと言った後にBと言ったまでの間隔、Bと言った後にC

## 理研が脳波分析

会話をしている時の発話の間隔が合うと、お互いの脳波の動きも似てくることを理化学研究所(和光市)が解明し、英科学誌「サイエンティフィック・リポート」電子版で発表した。無意識にリズムが合う場合の脳の動きが明らかになり、コミュニケーション障害の診断や福祉用ロボットへの応用が期待される。

## 福祉など応用期待

と言う間隔が合うと、2人の脳波の動きもそろったという。機械音や英語を母国語にした男性の声などを流す装置でも行ったが、装置が相手では発話のリズムに変化は見られなかった。

劇場で拍手をしている時に無意識に全体のリズムがそろうのと同じように、2人の発話の間隔が合ったとみられる。発話の間隔がそろうと、脳の言語をつかさどる側頭部と他者の動きに共鳴する頭頂部の脳波が2者で同じような動きをしたという。

実験に携わった理研脳科学総合研究センターの川崎真弘客員研究員(認知脳科学)は「発話のリズムを合わせれば、介護が必要な高齢者と家族の間でもうまくコミュニケーションができるのではないかと話している」。